発行:平成 30 年 6 月 15 日

会 議 議 事 録

会議名	平成 30 年度 第1回 教育課程編成委員会		専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	平成30年6月4日（月） 15:00 ～ 17:00		
会場	東京テクニカルカレッジ B1 テラホール		
参 加 者	委員	13人 3	（参加者） ・佐藤 康夫（全体会議長）、 ◇1 級教育課程分科会 ・山口 泰之（1 級分科会議長） ・甲斐 俊和 ・齋藤 昭男 ・酒井 彦樹 ・宮谷 真樹 ・井上 真一 ・園田 幸祐 ◇2 級教育課程分科会 ・松村 道隆（2 級分科会議長） ・国分 秀貴 ・国田 昌信 ・飯島 寿朗 ・澁谷 健 （欠席者） ・三橋 健一 ・油井 文江 ・飯野 俊行 ・坂本 康將 ・淺井 恵一
	事務局	2人	・開田 実 ・小林 完
配付資料 全体会 会 議 碌	全体会配布資料 ● 資料A・・・委員名簿 ● 資料B・・・前回議事録（H29年度第3回） ● 資料C・・・全体会説明資料 （パワーポイント） ● 資料D・・・学校案内（H31年度生版） ◇出席者・配布資料確認（事務局） ―――――――――― 全体会 ―――――――――― **1. 開会挨拶 （全体会議長）** 議長より平成30年度の本会議開催に向けて以下の説明・報告がなされた。 ● 職業実践専門課程の概要と教育課程編成委員会の位置づけを説明。 ● 自己評価報告書に関する分類と評価方法の説明、及び評価結果についいて ● 平成29年度事業報告 ➢ 就職、8月末100%目標未達成、3月末では100%となっているが、他校との差別化にはつながらない。		

審議事項	➢ 学生募集、H29年度：335名→H30年度304名、31名減、自動車希望の若者減少、大学進学増などの影響大 ➢ 資格二級は問題ないが、一級は昨年度を下回る低い結果となり、応用力への対応が出来ておらず、東京工科グループでプロジェクトを発足し対応中である。次年度に向けた抜本的な対策を立てている。 **2．議事** ①新委員等の紹介・確認（議長） 学内組織（校長、副校長）の大幅な変更が有り、また各企業の組織変更による委員の変更、本年度より新たに加わった委員の紹介があった。 ⇒ 全員一致で承認 ②前回議事録（H29年度第3回教育課程編成委員会）の確認（開田事務局） ⇒ 全員一致で承認
1級分科会 配付資料 審議事項	―――――――――――― 1級教育課程分科会 ―――――――――――― 配付資料 ：「H30年度新技術教員研修」 **1． 平成30年度教員研修（新技術研修）について** 議長より平成30年度の教員研修について以下の説明がなされた。 ・教員対象の研修の時期は、学生がいない夏休み期間でないと難しい。 ・上記期間の開催となれば、本会議以前に決めておく必要があった。 →本年度に関しては教員のスキルアップを目的とした、「新技術研修」をトヨタ東京カローラの酒井委員にお願いをした。 酒井委員よりH30年度教員研修内容について資料を基に以下の説明がなされた。 ● 日時：平成30年7月23日（月）10：00～16：00（研修センターの空き状況からほぼ確定） ● 場所：トヨタ東京カローラ 文京研修センター ● 内容：講義＝安全運転支援システム。TSS P（トヨタセーフティセンスP）の内容。 研修内容は、自動車整備振興会から依頼されている、整備主任者研修の内容に基づく。 ● 実習＝ハイブリッドシステム構造・機能及び故障診断。THSⅡシステムについて。教材30プリウス50プリウスを使用予定。 ● 実習＝バンパー脱着時のエーミング調整方法。外部診断機を用いて、ミリ波レーダの調整、カメラの調整等。 人数：最大20名程度 ⇒ 以上の内容で平成30年度教員研修を開催することとする。 **2． 次年度以降の教員研修の計画について** 議長より次年度以降の以下の提案がなされた。 教員技術研修については、JAMCA等の団体で行われる年に数名程度の参加であったが、今後は年に1回多くの教員が参加できる技術研修を産学連携にてお願いしたい。又、可能であれば各企業様の持ち回り（当番制）で実施していただきたい。

	● →（甲斐委員　横浜トヨペット）内容により受講人数の制約はあるが、企業施設を利用することは可能である。本年度の研修を参考に次年度を検討したい。 ● →（宮谷委員　ネッツトヨタ横浜）学生同様の基礎内容ではなく、教員向けに新たな内容で検討した方が良い。 ● →（斎藤委員　中央日産）教員が望む研修内容の確認が必要。学校からの要望をして頂きたい。また、学生へ伝える内容として、新技術も教員へは理解していただきたい。 ● →（酒井委員　トヨタ東京カローラ）教員研修の内容については、内容の引継ぎも含め、当委員会で共有する方がよい。 ● ⇒今後の教員研修担当企業を平成30年度は、トヨタ東京カローラ様とし、平成31年度は横浜トヨペット様とする。また、平成32年度以降は、当番制を基本に本委員会で決定することとする。 **３．その他意見交換** 議長より、自動運転等AI化について、各企業の取り組み内容を尋ねた。 ● →（斎藤委員）今後の故障診断等は、メーカとディーラ間での車両データの通信により解析をするものとなると思われる。 ● →（甲斐委員）　不要作動、誤作動、限界作動を判断するのは、外部診断機によるメーカとの通信診断が主流となり技術的な知識よりも顧客にたいする説明能力が求められる。、 ● →（井上委員）メーカ独自の最高位資格の内容はどのようなレベルなのか。可能であれば、次回会議に試験問題等の内容も含め情報として頂きたい。 議長より次回10月5日の検討内容（本年度の学園の取組であるカリキュラムポリシーについてご意見を頂きたい）が伝えられ、分科会を終了した。
2級分科会 配付資料	―――――――――――――― 2級教育課程分科会 ―――――――――――――― 配付資料　：「企業連携授業」 **１．学生向け技術教育推進みついて** 議長より企業連携による研修の紹介が下記のようにあった。 ● 品川校を例に教員の技術講習・学生の受講・研修の紹介を行った。 ➢HDJトレーニングセンター研修 ➢マツダグループ研修 ➢神奈川ダイハツ技術研修 ➢ポルシェ、ランボルギーニ故障診断 ➢ネッツトヨタ横浜86技術研修 ➢いすゞグループメカニズム学習会 ● 研修についての意見交換 ◆ 学内委員の意見 ➢ 近年の新型車の最新技術については、教員でも知識不足者がいるため教員に対して

審議事項	の新技術研修は非常に良い。 ➢ 現在は昔と新型車両の整備（入庫～納車まで）の仕方が違うので、教員の研修も必要であると考える。教員が知ることにより、学生に対して授業で教えることが出来ればと考えている。 ◆ 学外委員の意見 ➢ 現在は作業スピードが要求されており、その様な流れを知って頂くと良いと考える。ダイハツは、営業と同じくらいメカニックがお客様と話をするので、見て頂くのは良いと思う。 ➢ 学校では見た事のない工具もあり、点検やタイヤを外すのも小型車とは違うので、その様な所を見て欲しい。大型整備ならではの物を見てもらえたら良いと思う。 ➢ お客様が高齢化しており為、その様な方々の対応は見たほうが良い。 **２．企業連携の研修内容について** ● 新技術の入った自動車の整備について、今までとは違う基本的な作業やその取り組みについて教えたい。 ● 1年生についてはユーザーと同じで、自動車の仕様や機能を伝えて欲しい。その流れで新技術に入ると学生の集中力も変わってくると思う。 **３．学生のスキルアップに対する取組について** ● 過去にサーキット・テスター、マイクロ・メーター、ノギスが使えるようにして欲しいと言われ、東京工科Gではサーキット・テスター、ノギスは個人の物を購入させている。しかし、計測機器等のスキルで不足しているものはないか。また、新入社員に対して直した方が良いと思う事があるか。現状を各委員に確認した。 ➢ 企）スマホは出来るがパソコンが出来ない。パソコンで伝票を上げるのでパソコンは出来るようにして欲しい。 ➢ 学）東京工科Gの卒業生は入学時からパソコンの授業を導入し行っているが、東京工科Gの卒業生もNGなのでしょうか。学校の教育の効果について是非フィードバックをお願いします。 ➢ 企）ヤフー検索は出来るが、車両データの検索が出来ない。 ➢ 企）新入社員全体に言えるのは、文章能力が低く漢字や文章を読んで理解できていない。 ➢ 学）セミナーの報告書でやらせているが、文章が書ける特定の人間に任せている可能性もあるので、個人を確認していきたい。 ➢ 企）学生の英語力をつけて欲しいと考えている。英語力は無くてもせめて翻訳機が使えるようにと思う。 ➢ 学）基本的な単語が分かれば、マニュアルも見れると思うので考えたい。 ➢ 参考ですが、4年課程ではビジネス英語の授業を行っている。 ⇒議長より企業様のおっしゃっている不足部分に関しては、東京工科G内で協議を行い対応策について考えてゆきたい。

会議風景	議長より次回までには、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーからカリキュラムポリシーを策定に向けた内容を公開し確認を頂くこととし、分科会を終了した。 ＜全体会＞ ＜1級課程分科会＞ ＜2級課程分科会＞
事務局より 次回日程	平成30年　10月　5日（金）15：00～17：00

以上